

## 【関東ESDセンターの役割】

- ① ESD活動を支援する  
**情報共有機能**
- ② 現場のニーズを反映した  
ESD活動の **支援機能**
- ③ ESD活動の**ネットワークの  
形成機能**
- ④ **人材育成機能**

## 【関東ESDセンター今年度の主要事業】

- ・ESD実践・推進にかかる相談/支援
- ・ウェブサイト、メールマガジン等による情報発信
- ・地域におけるESD推進の課題・ニーズの把握
- ・関東地方ESD推進ネットワーク・フォーラムの開催
- ・地域ESD拠点の形成・ネットワークの構築
- ・地域ESD拠点間、ESD実践者の学び合いの場づくり



**E**ducation for ~ のための教育  
**S**ustainable ~ 持続可能な  
**D**evelopment ~ 開発・発展

## 持続可能な開発のための教育

「持続可能な開発のための教育(ESD)」は、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する現代社会における様々な問題を、**各人が自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動である。【ESD国内実施計画より】**

# ESDの学びのプロセス

関心を持ちやすいもの  
(地域ネタ)  
身近なテーマ  
教科横断

## テーマの インプット

- ・体験
- ・ESDプログラム
- ・外部講師

ネットやAIに頼らない

## 個人・グループで 探究

- ・調査
- ・ヒアリング
- ・交流

## アウトプット

- ・発表
- ・他者との交流

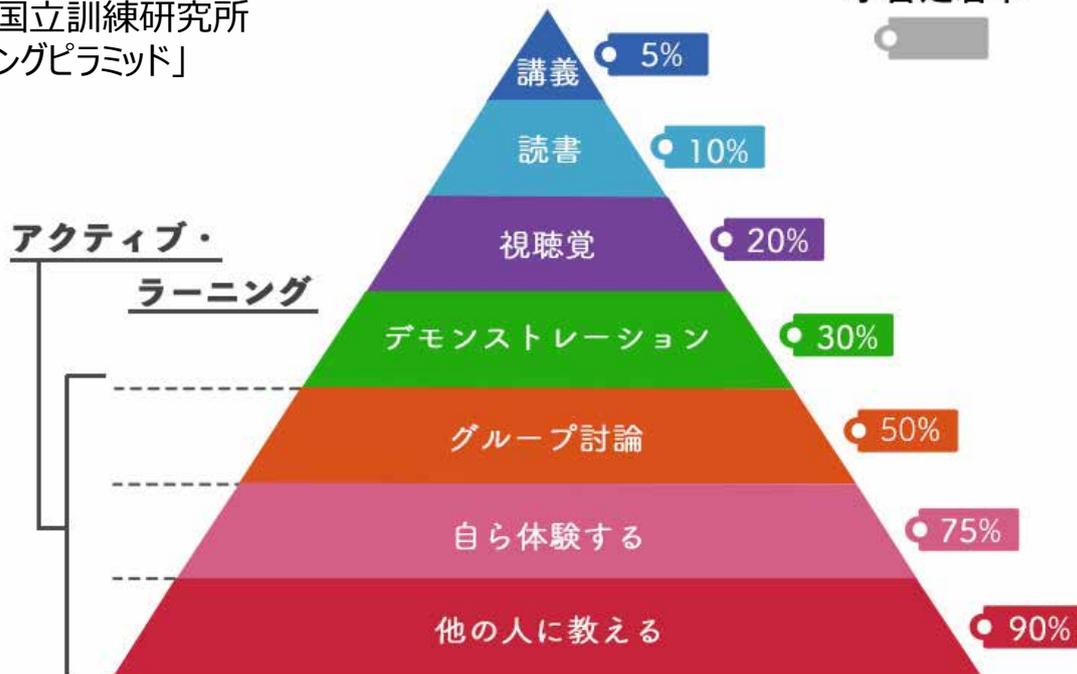


学びに火をつける

## 「体験」はESDの重要な要素

アメリカ国立訓練研究所  
「ラーニングピラミッド」

学習定着率

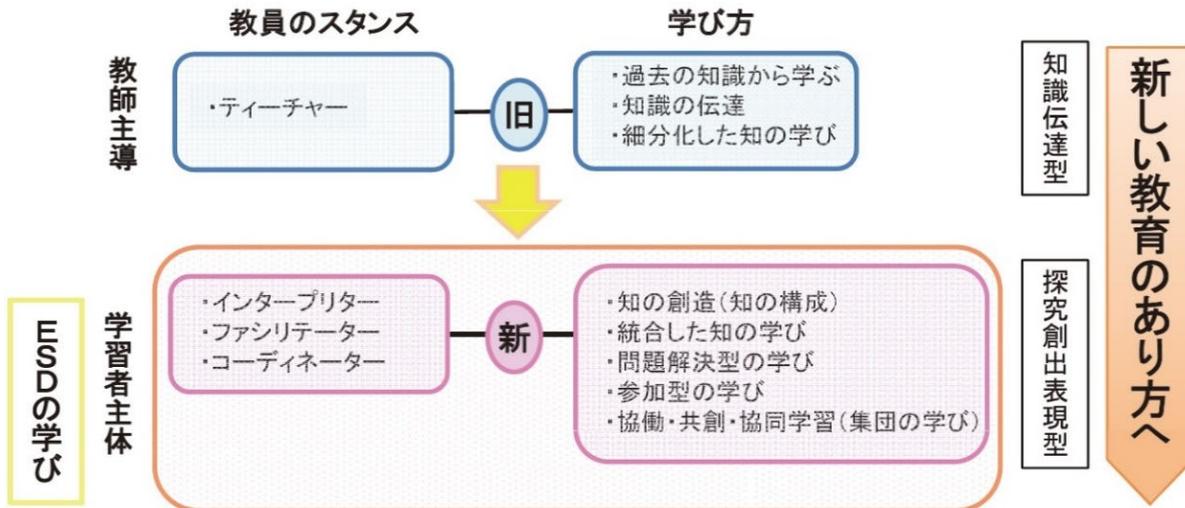


ラーニング・ピラミッド

出典：ニキキャリア教育ラボ

# ESDの進め方

## 教える → 気づかせる



環境省「ESD 環境教育モデルプログラムガイドブック②」  
平成26年7月発行 より



2030年の未来は、  
大人には任せておかない！

中・高生なら誰でも参加できる

### SDGs文化祭



コロナ前は、対面のみでやっていた  
中目黒駅前の広場で、道ゆく大人  
に、中高生が自分の考えるSDGs  
アクションをプレゼン



磨き上げたSDGsアクションを  
ブースで発表。  
@聖心女子大学





2030年の未来は、  
大人には任せておけない！  
中・高生なら誰でも参加できる  
SDGs文化祭

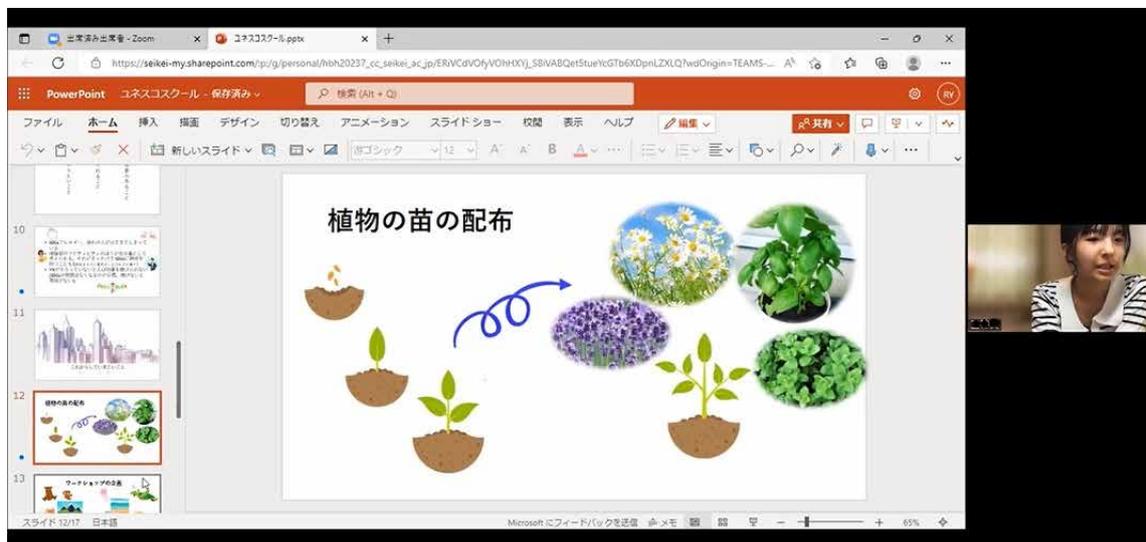
振り返り

企業のSDGs担当者との交流

中高生同士の学び合い



関東地方ESD活動支援センター  
Education for Sustainable Development



- ・環境保全（中学3年チーム）
- ・絶滅危惧種（ムサシトミヨ）の保護（高校2年チーム）
- ・フードロス（高校2年チーム）
- ・バナナペーパー普及のための活動（高校2年チーム）
- ・福島でのオーガニックコットン、SDGsファッションショー（中学3年チーム）



関東地方ESD活動支援センター  
Education for Sustainable Development

## 参加生徒の感想

- 学校以外の人と話を聞く機会が初めてだったが、アドバイスが聞けて参加してよかった
- 新しい見方が広がった。他のグループの不安を聞くことで、同じ悩みなども聞けてとても参考になった
- 情報共有ができたのが嬉しかった。  
企業の人からのアドバイスも貴重。  
プレゼンのしかたなど、伝え方を教えてもらって、改善できた。
- 色々な人から意見をもらって、自分たちのプロジェクトに客観性を持たせることができた。

## 「ESD for 2030学び合いプロジェクト」とは？

### ＜プロジェクトの目的＞

特定のテーマや課題に関心を有する様々な主体が地域を越えて参加し、**相互の学び合いや実践活動を通して各主体の活動の向上を図るとともに**、得られた知見を活かし同様の取り組みを全国に広めていくことを目的とします。

### ＜プロジェクトの進め方＞

- 全国8カ所の地方ESD活動支援センターが、地域の課題や各センターの強みを考慮してテーマを設定し、プロジェクトを運営します。
- テーマ・目的に沿って、メンバー同士の勉強会やESD活動の企画・実践などを行います。

# 「気候変動による影響と対策に関する、学びと実践」

## 「気候変動教育」は地球規模課題であり、「自分ごと」として捉えにくい

中学生に関心を持ってもらうには、「身近なテーマ」と結びつけることが重要では？



地球温暖化適応策と水害対策

実際に自分達が住んでいる地域の「**地理的特性の理解**」と災害時の「**避難所開設**」

## 令和4年度 ESD2030学び合いプロジェクト（関東） ～気候変動による影響と対策に関する、学びと実践～（概要）

実施対象：流山市立東部中学校 1年生



ESDプログラム実施

動画公開 (限定)

災害時に見過ごされがちな女性の視点や障害者・高齢者への配慮、コロナ感染対策、ペットの保護など多様な学びを得た。

ワーキンググループ (WG)

学び合いプロジェクトの内容を検討

流山市防災危機管理課、流山市教委、東部中学校、NPO、公民館、国環研適応センター、ESD学識者

プロジェクトメンバー

温暖化・適応センター、行政 (防災) NPO、一般、学校を想定

## 第1回

### 「気候変動の影響と適応」を考える

地球規模課題である、気候変動について学んだ。「地球温暖化の進行により雨の降り方が極端化」することにより、各地で洪水などリスクが高まり、長期的には海面上昇の問題もあります。気候変動には、「緩和策」と「適応策」があり、今回は特に適応策について、水害リスクが増大することへの理解を深めた。

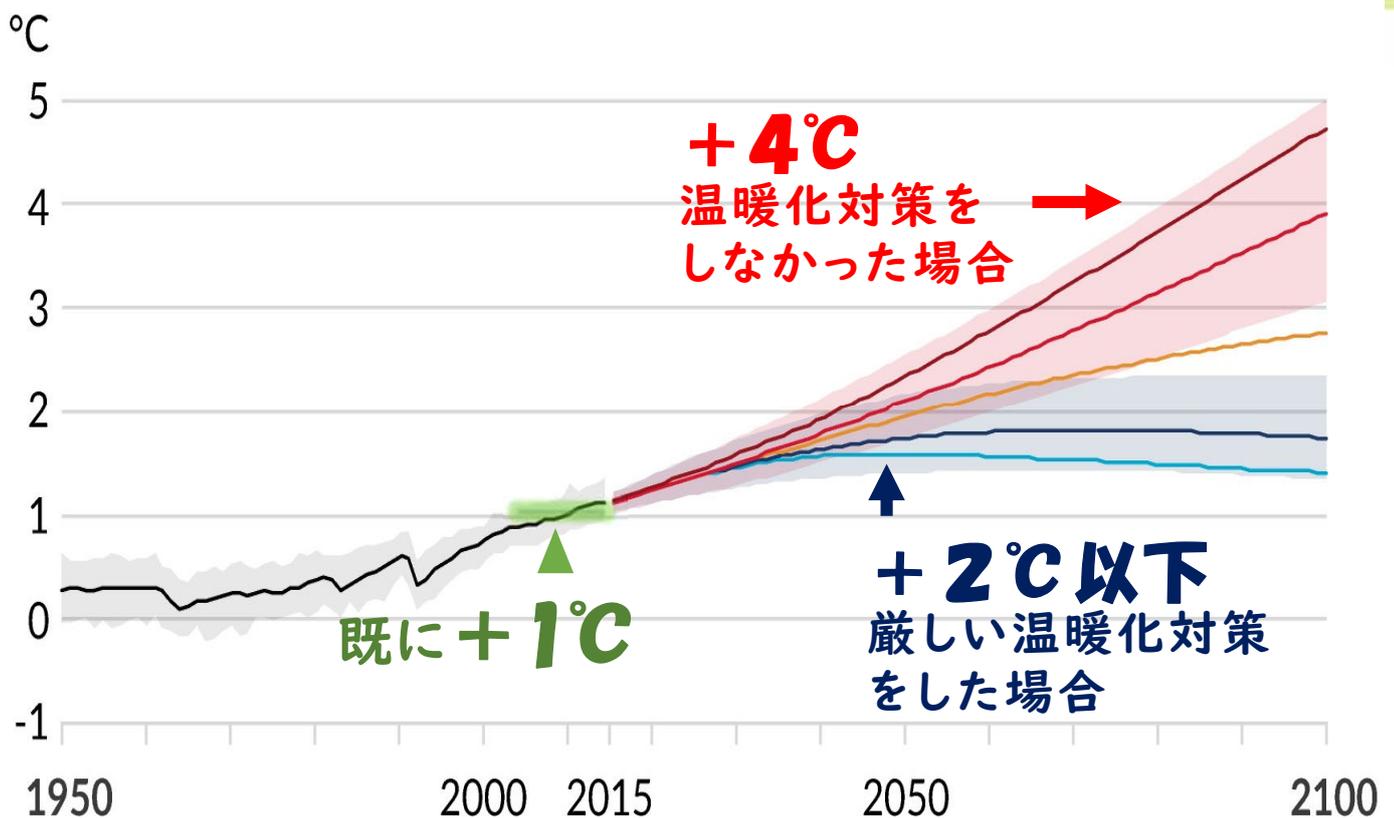


実施日 令和4年6月30日（木）

対象 流山市立東部中学校1～3年生（約550名）  
→[生徒への振り返りシートまとめ](#)

講師 国立環境研究所 気候変動適応センター 副センター長 吉川圭子様  
「気候変動への対応を考える」

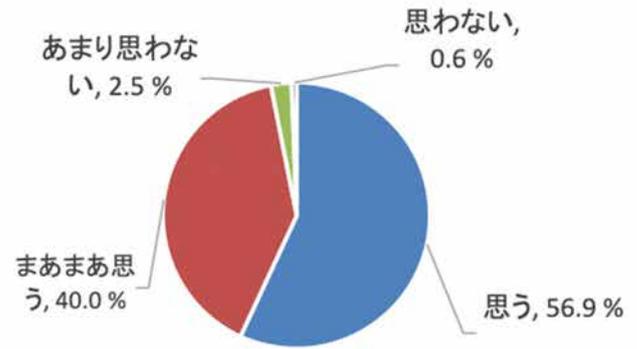
## 1. 「気候変動の影響と適応」を考える



# 「気候変動の影響と適応」を考える 生徒の感想（中1）

気候変動適応について、あなたにも取り組めると思ったことはありますか？

回答	人数	%
思う	91	56.9
まあまあ思う	64	40.0
あまり思わない	4	2.5
思わない	1	0.6



## 【生徒の感想】

### <自分のできることに取り組みたい、考えて行動したい> 61件

- ・自分でも、気候変動に適応して備えようと思いました。災害にあった人のために、お金を寄付しようと思いました。ニュースなどを見て、**準備をしっかりとしました。**
- ・現在、地球温暖化で気温が高く、エアコンをたくさんつけてしまっているのですが、そのえいきょうで もっと気温がたかくなり、食物や動物にもえいきょうしてしまうことがわかったので、エアコンの温度を 上げるというささいなことでも、**自分にできることはできるようにしようと思いました。**
- ・私は今まで、あまり、取り組もうと思わなかったので、この話をきき自分ができるところにこれから取り組んで いきたいです。あまり、気候変動についてわからなかったので、**自分で調べてみたいです。**  
小学校ではあまり、こんなきかいがなかったので、**中学生になってたくさんしれたのでよかったです。**

## 第2回

### 私たちのまちの防災

地域の水害対策を行う上で、地域の土地の特徴を理解する必要があります。縄文時代は今より温暖で、流山市の西側は海面上昇により東京湾が入り込んでいました。縄文人の住居跡である遺跡は、海面上昇でも海に没しない場所に立てられています。現代においても、かつて海であった場所は水害リスクの高い場所となります。ハザードマップの見方と、災害時の対応について学び、自らの行動について考えます。



実施日 令和4年7月8日（金）

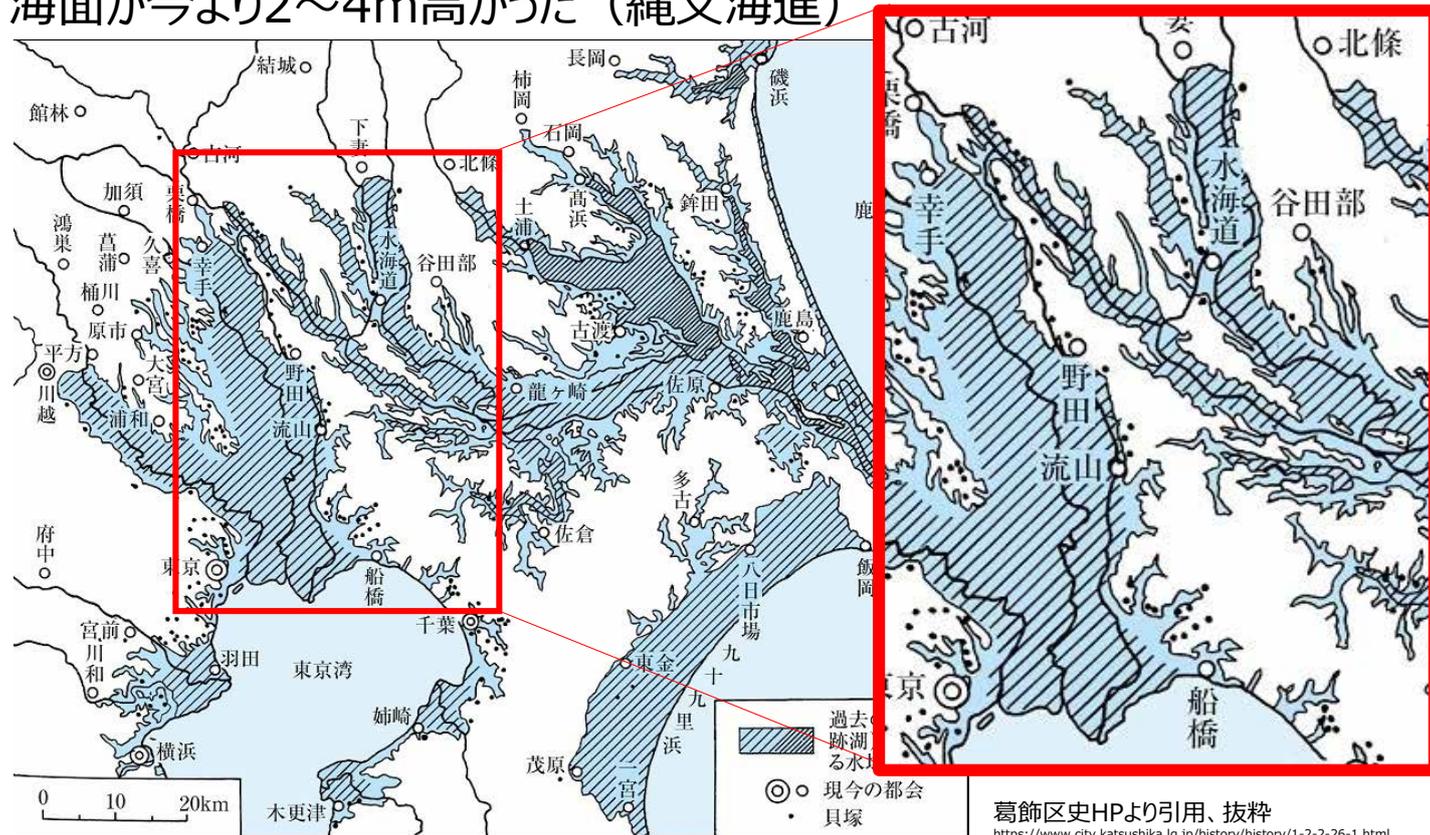
対象 流山市立東部中学校1年生（約150名）

講師

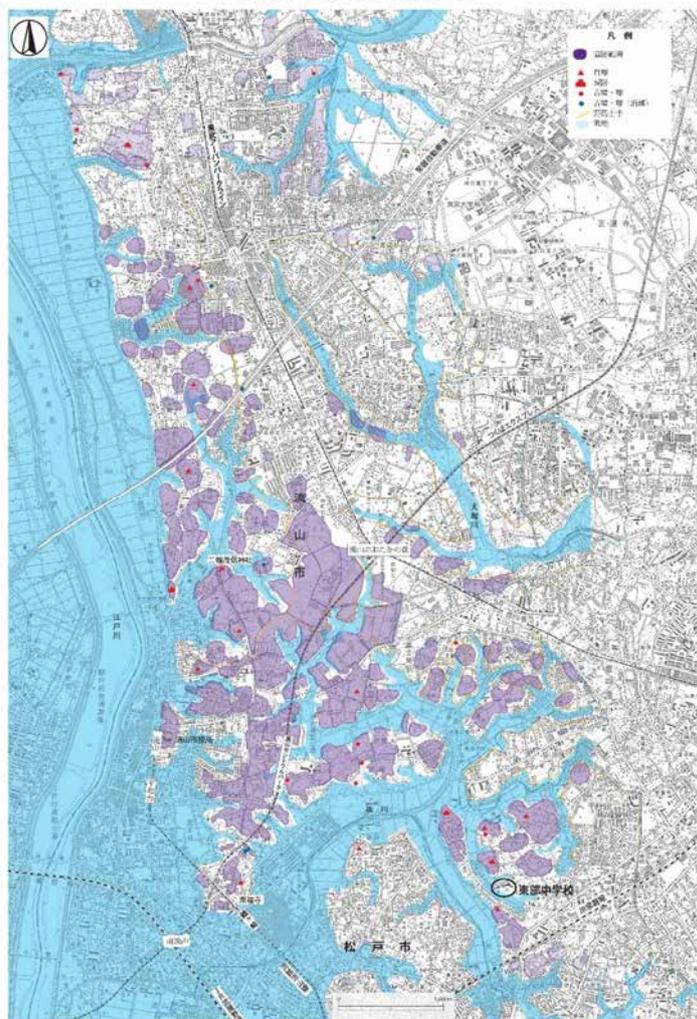
- ・流山市立博物館 学芸係長 小川勝和様  
（当日発表：主任学芸員 宮川博司様）  
「流山市の地形の成り立ち」  
配布資料「[流山市遺跡全体図](#)」（PDF：1.8MB）
- ・流山市役所 市民生活部 防災危機管理課係長 高橋正臣様  
配布資料「[流山市ハザードマップ](#)」

## 2 : 「私たちのまちの防災」 : 「流山市の地形の成り立ち」流山市立博物館

約6,000年前の縄文時代には年平均で今より1~2℃気温が高く、海面が今より2~4m高かった（縄文海進）



流山市遺跡全体図

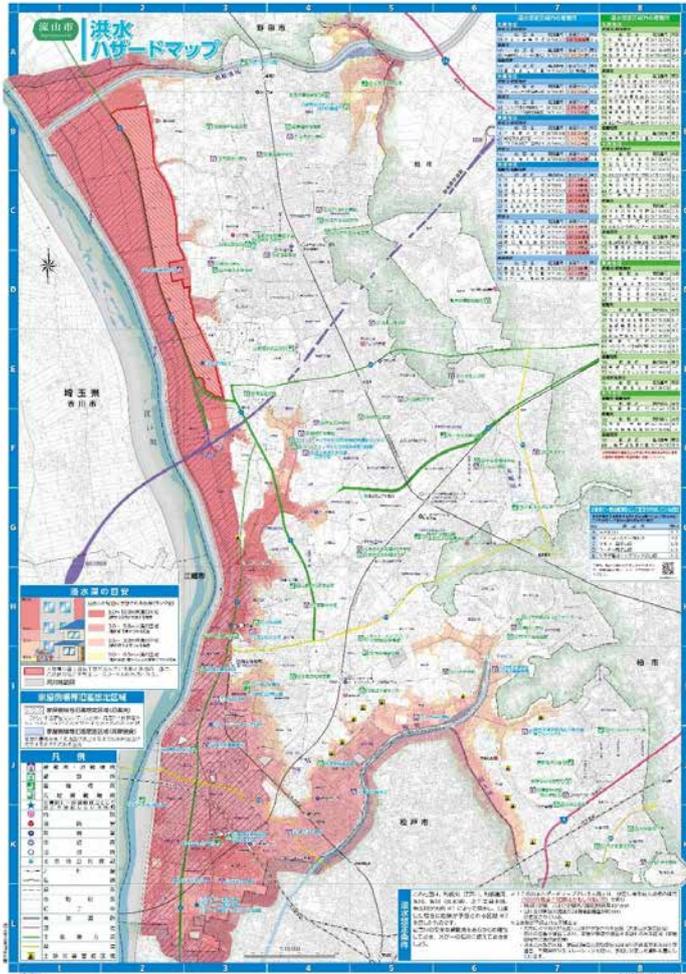


### 流山市立博物館

### 縄文時代の流山市の海岸線と遺跡の位置関係

縄文遺跡は、貝の採取に都合の良い、当時の海岸線そばに立地。

## 2 : 「私たちのまちの防災」：「ハザードマップについて」



流山市役所  
市民生活部 防災危機管理課

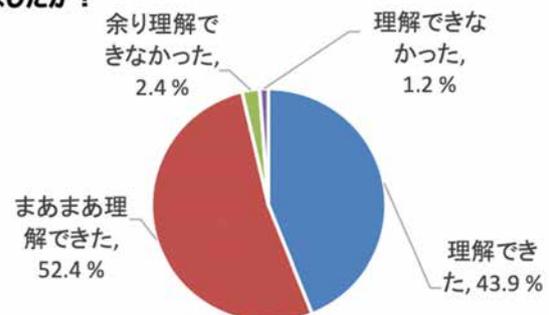


縄文時代の海岸線と、  
現代のハザードマップの水没危険箇所は、  
基本的に一致する

### 「私たちのまちの防災」を考える 生徒の感想（中1）

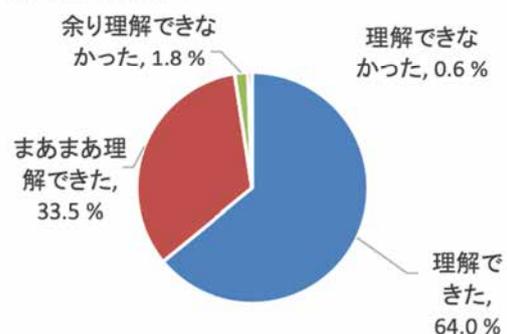
Q1 流山の地形の特徴と、市内の遺跡の関係を理解しましたか？

回答	人数	%
理解できた	72	43.9
まあまあ理解できた	86	52.4
余り理解できなかった	4	2.4
理解できなかった	2	1.2



Q2 ハザードマップで、流山市全体の危険な場所がどこか理解できましたか？

回答	人数	%
理解できた	105	64.0
まあまあ理解できた	55	33.5
余り理解できなかった	3	1.8
理解できなかった	1	0.6



# 「私たちのまちの防災」を考える 生徒の感想（中1）

## <分かった、知れてよかった、驚いた> 43件

- ・ 私の家の周りは、災害(危険な場)と関係ないと思っていたので、**危険だということが知れてよかったです。**
- ・ **流山市が元海だったことにおどろいた。**

## <備えたい、学んだことを生かしたい> 34件

- ・ いざという危険な時のために、周りの人や家族友達などと災害について話し合ってみたい。
- ・ 今日話をきいて、これからもっと**災害にそなえようという気持ちが強まった。**  
もらったハザードマップを有効につかっていきたい。

## <難しかった> 3件

- ・ **災害と遺跡の関係のところ**が話が難しくあまり理解できませんでした。  
でも自分が住んでいる所の危険度などを知れて面白かったです。

## <要望、他> 25件

- ・ **流山市のことだと身近に感じた。**
- ・ 自分の住んでいるへんは高くなっているけどだいじょうぶかしんぱいになった。

## 第3回 避難所開設訓練



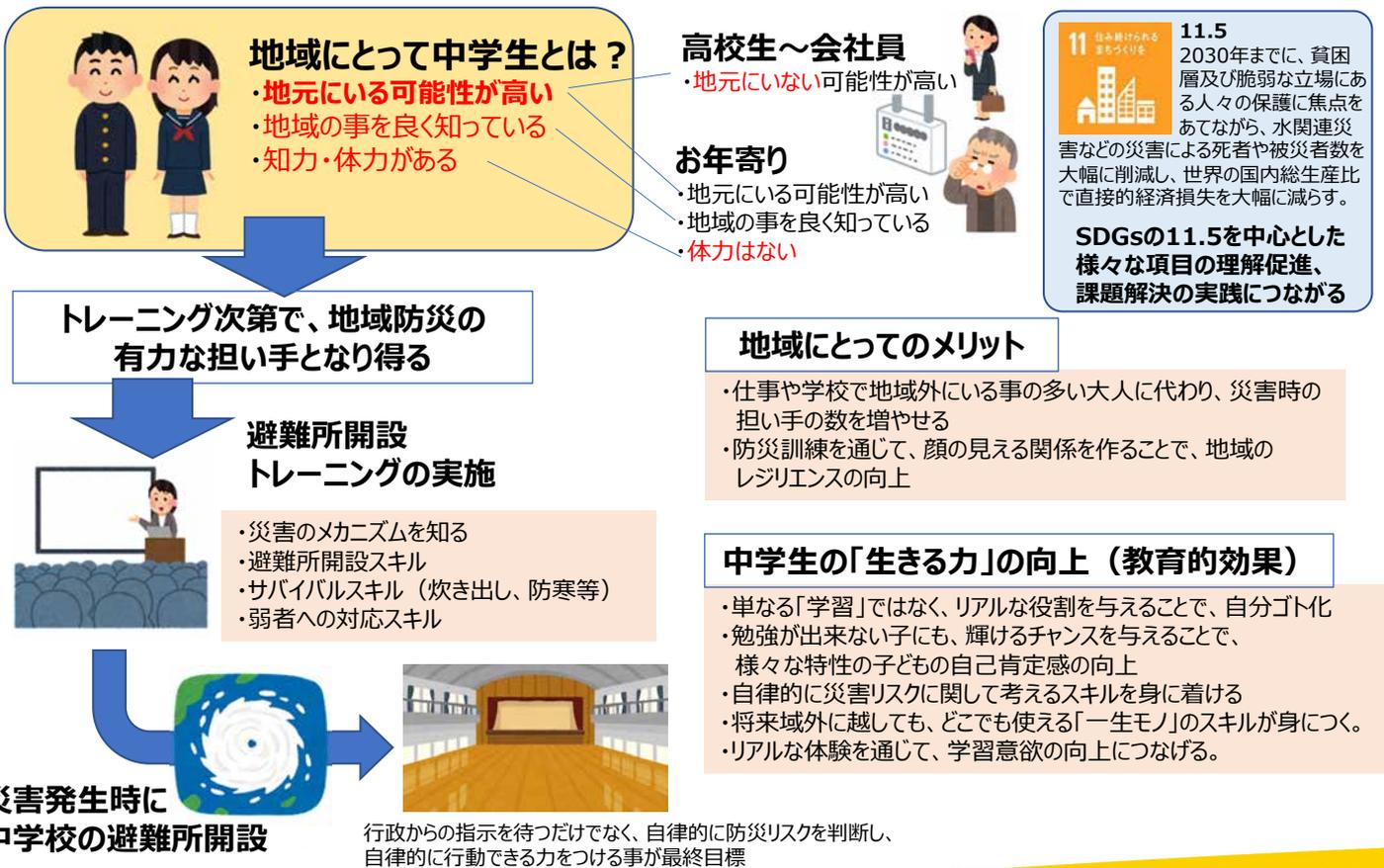
実施日 令和4年11月11日（金）

対象 流山市立東部中学校1年生（約150名）

講師 ・流山防災まちづくりプロジェクト 代表 矢口輝美様

<参考> 流山の防災まちづくりを進める団体から相談のあった取組

## 中学生による避難所運営と「生きる力」向上プロジェクト



## 課題（私見）

### ・（つなぎ役：組織、人員、予算）

今回、当センターが繋いだ部分を、地域で担う仕組みがあまりない。

今回ように異なる分野、セクター等を結びつけるのは、どこか実施主体となれば良いのか？

### ・（教材開発）

ローカル教材は、生徒の関心を惹きつけやすいが、その開発は誰が？

→学校の教職員は異動し、そのための時間を割くことも難しく、学校での教材開発は難しい

### ・（学校と外部の連携）

学校と外部が連携することは非常に難しいが、今回は地域のNPOの方に学校との関わりが強い方がおり、そのために実施ができたが、そうしたコネクションがなければ、学校の授業に取り入れてもらうことは非常に難しい

### ・（費用負担）

NPOと協働する際、運営の対価を払うのが難しい。NPOのサステナビリティにも収益化が必要